

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390810077		
法人名	NPO法人安暖手		
事業所名	グループホーム大道		
所在地	熊本県山鹿市方保田828番地2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「その一瞬一瞬を大切に共にいきる」を日々振り返りながらケアを行っています。「コロナ禍だから」を理由に制限しすぎず、利用者のリクエストに答えるかたちでの外出も感染症対策に気を付けながら継続しています。季節を感じるができるよう庭の手入れに力を入れ玄関や室内に花を飾り心地良い空間づくりを行っています。ご家族と一緒に介すことは難しい時だからこそ情報提供は今まで以上に丁寧に行っています。
開設当初より「まずは本人の意志を確認し同意を得る」ということを忘れずにケアを実践し続けています。看取りを重ねる中で学んだ「今」を大切にしたい気持ちを今後も持ち続けながらその人らしい生き方をお手伝いしていきたいと考えます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域名を取り入れたホームが開設して10年の節目を過ぎたが、理念を大切にしながら日々のケアは変わることなく、今回の訪問でも職員の細やかな配慮のもと入居者一人ひとりのお穏やかな表情や差し入れの品を届ける家族からも安心や信頼感が伝わってきた。ホームの姿勢や取り組みは地域にも十分浸透しており、今後は小・中・高校生などこれから高齢者を支えていく若者にも発信していきたいとしている。そんな中、3月半ばに開催予定の高校生向けの企業ガイダンスに参加が決定しており、施設長はこれまでホームが培ってきた人との関わりや看取りを通じて最終までを支える取組について話を進めたいとしている。今年度は5名の方の思いや意向に沿い、「大道でよかった!」と思ってもらえるような終末期支援が行われている。新たな法人名『安らぎのある暖かな手』で、今後も職員が心をつなぐ支援を提供していきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会を実施し振り返る機会をもち、また目に見えるところに掲示しケアの振り返りを行うように努力している。理念の中でも特に気を付けたい内容を個人で目標設定している	「その一瞬一瞬を大切に共に生きる」を理念とし、ひとつ屋根の下でお互いにふれあい、支えあい、慈しみあいながら生活していくことで第二の我が家を目指したいとしている。職員は「大切に生きる」とはどういうことか、それぞれが描く個人目標を立て、年度末に振り返り評価するようにしており、開設時からホームの姿勢は家族や地域へも確実に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンへの参加や散歩などを通して地域との関わりがもてている	地域サロンには施設長も出向き、体操や会話を楽しみながら人々とひと時を過ごしている。隣接する墓所にお墓を持つ入居者の為、お供え物をもって全員で出かけたり、地元の清掃活動に職員が参加して地域の一員として生活している。ショッピングセンターで開催されたマルシェに出かけた際には、買い物を楽しんだ入居者が自らお金を支払われるなど社会参加の機会としている。	地元の高校生(1・2学年)を対象にしたガイダンスに当ホームが参加を予定しており、入居者との普段の関わりを通じてホームが大切にしているものを伝えたいとしている。地域への啓発活動の一環として大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防拠点事業やサロン活動などを通じて共に過ごす時間を設けている。また新たな活動として近隣のフリーマーケットに利用者と共に参加予定としている。SOSネットワーク事業、認知症サポートリーダー活動のとりまとめ事業所の協力	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催に至らず書面での報告が主になっている。	感染症の状況をみて直接開催にて参加者と顔を合わせたこともあったが、現在は資料送付による書面審議にてホームの現状を発信している。二か月ごとの行事や入居者の状況を紹介し、研修やヒヤリ、事故報告、身体拘束に対するホームの取組をわかりやすく伝えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば相談や報告を行っている。この度の法人変更に際しては密に相談に乗っていただいた	現在ホームはNPO法人安暖手(事業所名はそのままに)として運営を継続しており、法人変更の折には行政への相談や適切な指導を受けており、良好な関係性を築いている。新年度は共用デイのスタートが決定しており、新たに地域からの利用者を迎え、更なる展開が期待される場所である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や窓の施錠は日中は行っていない。勉強会を実施し不適切なケアについても考える機会を持っている	日中ホームの玄関はオープンであり、訪問当日も普段通り玄関先に出られる入居者の姿が見られた。ニュースなどの事例から拘束や虐待について自身やホームに置き換えて話し合い教訓としている。全体会議の中で入居者との会話や対応時の違和感など気になる点を出し合い、思いを受け止め、方言を交えて入居者自身に理解してもらえるような話し方を心掛けなければいけないとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に勉強会の機会をもち日々のケアの振り返りを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年は社協からの勉強会を依頼したが本年は実施できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や相談の際にしっかりと話を聞くようにしている。改定時には文書及び口頭で説明をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前のように合同の行事もできないことやゆっくりとご家族と話あう機会も減っているためもしかしたら意見や要望を遠慮されている可能性もある	入居者と職員の距離が近く、普段から遠慮なく要望などを伝えられるようである。内容は申し送りや会議で共有し、支援の中に反映したり、プランに盛り込みながら状況进行评估している。家族の思いは感染症が少し落ち着いた現在、直接話を聞き、忌憚のない意見をもらうよう投げかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議や日頃より意見を言い合える場となっている	施設長は職員が気兼ねなく話せる場を作るよう配慮している。職員の一生懸命さ故の行動が負担にならないよう、個別に話を聞いたり、希望休や有休に応じながらストレスをためない工夫に取り組んでいる。毎月の会議でケア向上や業務改善に向けた提案を出し合い、入居者の現状をしっかりと共有しケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会の際や普段の勤務及び勤務の前後においてスタッフの意見や体調、心身のストレスなどについてできる限り気を配るように努力しているが不十分かもしれない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人のその時の状況に応じ(体調やモチベーション)研修への参加を提案している。また個人の仕事の力量やトレーニングについて他の機関との連携や相談の機会も設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍となり交流する機会は減ってきているものの地密連絡会や日ホス、GH全国大会への参加などを通しつながりを大切にしている。この度はおはよう21への取材などへ発展した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点でご本人、ご家族、サービス事業所への訪問を実施し情報収集し本人やご家族の気持ちを確認し関係づくりを大切にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から関わる中でご家族が感じている不安や要望をしっかりと聴き取り不安解消に向け誠実に対応している。スタッフ間での情報共有も大切にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと話を聞き本人、ご家族が何に困っているのかを確認しサービス利用に至らずとも必要なサービスを提案したり繋いだりすることもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として大切に尊重しつつ共に生活する相手として調理、買い物、洗濯、掃除など協力しあうようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんを中心に共に支える関係性であり報告、相談は欠かさず行っている。ご家族の存在が何にも代えがたいものであることは伝え続けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のその時の「会いたい」や「行きたい」気持ちを大切に生家を訪ねたり、以前に通われていたお店へ出かけたり、母親代わりに育てた孫の結婚式へ参列が叶ったりと努力している	入居者がこれまで培ってきた馴染みの人や物、暮らし方に焦点をあて、感染症に配慮したうえでそれらの人や場所との再開を果たすべく、努力したことが書類や聞き取りから窺えた。故郷の家の周辺では車を降りて歩き、久々に見る馴染みの景色にとても喜ばれたようである。9人の入居者にはそれぞれの馴染みの人や場所があり、その一時を喜ばれることの為に支援したいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に暮らすもの同士必要時にはフォローをしながら支え合いお世話を焼いたり、あいさつの笑顔が出たり協力し合う姿もみられる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを終えたご家族へのフォローでお参りに伺ったりご命日にはLINEをしたり年賀状のやり取りやホームに遊びに来てくださったりと繋がりは続いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは本人にどうしたいかお尋ねしている。困難な時には家族からの意見を確認したり普段の会話や考えから本人らしさに照らし検討する	入居者の意向は気づきノート(アセスメント)や普段の会話から収集し、不明な点は家族に助言を仰ぎながら確認している。入居者の中にはハッキリと自身の言葉で職員に思いを告げられる方や、意思表示が難しくなられた方もおられ、双方の思いに寄り添いながらケア会議で共有し、プランにつなぐようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、ご家族に時間を取っていたできるだけ限りの情報を集めるようにしている。大切にしてきたことがわかるシートを活用し共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな気づきや本人のこだわり、日課を把握し情報を共有している(起床後の甘酒1杯で元気が出る。お仏飯はお下がりで頂く)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話合う機会は少ないがその時々で出る課題についてスタッフからの情報をケアマネがとりまとめセンター方式などを活用しプランを作成している	職員を入居者の担当制とはしているものの全職員がプラン作成にかかわり、ケアマネジャーは職員の気づきを尊重しながら立案している。入居直後は3か月後に見なおし、評価しながら新プランとし、3か月を過ごされる中で、新たに見えた内容を追加するなど現状に即したものとしている。入居者がこれまで続けてきた暮らし方を一つひとつ本人に教えてもらいながら、その暮らし方を大切にしていきたいとするホームの方針がプラン内容にも窺える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や本人からの言葉を記録に残し情報を共有している。ケアプランを毎日確認しチェックしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナルの利用者のご家族からの要望にすぐに対応したことでご自宅での看取りが実現できた。 また、入居待ちの利用者がスムーズに入居できるためにも共用デイを開始予定		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すべての利用者の暮らしを支える地域資源の把握までは至っていないが可能な限りの情報収集を行っていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前のかかりつけ医を継続しているまた入居に際しては主治医への挨拶を行っている。受診時には可能であれば同行したり必要時には情報提供書の作成をしている	かかりつけ医は本人・家族の希望を確認し、現在5か所の医療機関による訪問診療や通院が行われている。通院は基本的に家族に依頼しているが、状況によってはホームでも柔軟に応じている。重度化・終末期支援になった場合は、訪問診療が可能な医療機関への変更を説明している。日頃の口腔ケアは個々に応じた食後の歯磨きや義歯管理に努め、治療が必要な方には訪問診療が行われている。職員はバイタルチェックや日頃の関わりから異常の早期発見に努め、体重測定は月1回を基本に、必要に応じて回数を増やしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護からの健康チェックに加え併設の訪問看護事業所へ適宜相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には連携室へ挨拶を行い情報共有している。コロナのため面会制限があり以前より情報の収集が難しくなった(以前はスタッフがこまめに面会し情報収集していたため)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については普段の会話から本人の意向を確認する機会を持つようになっている。また状況に応じて気持ちは変わって当たり前であることを伝えご家族の迷いに寄り添えるようになっている。こまめに話合う機会をもち「大道でよかった」を目指しています	重度化・終末期支援についてはホームの方針を全職員で共有し、本人・家族の思いに沿って支援することとし、入居時に家族への説明も行っている。終末期の在り方については普段の会話から本人の思いを確認する機会をもっており、家族についても同様、迷いや相談にも適宜応じている。また、思いは変化するものでありその時々で話しあっていくことを申し添えている。本人・家族、これまで関わってきた職員の思いもあり、帰省し家族が作った本人直伝の茶碗蒸しを食べながら自宅で最期を迎えられた方もおられる。これまで生活を共にした入居者の葬儀への参列を希望し、職員と臨まれた方などホームの高齢者介護に対する姿勢が伝わってくる。	今年度は5名の方の終末期支援が行われている。職員はその都度「大道でよかった！」と、思ってもらえるよう精いっぱい努めている。高齢者の介護、終末期支援の姿など今後はこれからは担う学生にも伝えていきたいとしており、取組が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護や消防からの勉強会の機会を設けているがいざという時の実践力が身に付けられているかはわからない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣に消防団員が多数おられるため災害時の救助の依頼はしているが実践は出来ない。BCP作成等に盛り込み実践いつなげたい	今年度火災訓練を実施した際は、入居者の入れ替わりがあり、これまでのようには対応が難しかったようである。3月には寝たきりの方をベッドからシーツごとおろす訓練などを検討している。備蓄はリストをもとに駐車場倉庫に排せつ用品、食料、水などが確保されている。	近隣に消防団員が多数おられることは心強く、災害時の救助依頼など今後の取組が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のそれまでの人生の歴史や人となりを知りその人らしさを大切にしたケアに心掛けている	入居者一人ひとりを知りその方らしさを大切にした支援に努めている。呼称は入居時に聞いており、家族の要望や本人にも確認している。寝たい方には起こしたりせず、本人のペースを大切にしており、速やかに要望へ応えることができない場合は、近日中に対応出来るよう、職員間の連携が図られている。身だしなみやおしゃれにも家族の協力を得支援しており、化粧品は保湿剤などお気にいりや使い慣れたものが変わらず使用できるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは本人へしっかりと説明をし意志を確認することを大切にしている。発語が困難な方や自己決定が難しい方からの何かしらのサインも大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時を大切にしている。本人の状況やペースに合わせたケアを行っている。その時の希望に添えない時には近日中に行うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みやそれまで使用してきたクリームや化粧水など愛着のあるものを継続して使用できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来ることや出来ないことを把握し一緒に調理作業、火の番、味見、盛り付け。かたづけをおこなっている(下ごしらえが得意だが味付けは苦手、味見が得意…等)	開設当初から職員による献立作成や調理が行われており、入居者の楽しみの一つとなっている。野菜は畑で収穫したり差し入れなども鮮度のあるうちに活用しており、臨機応変に献立を変更している。嚥下状態に応じ、さざみ(極・あら)食を準備し、お節は個々に応じ好みを入れお重に詰めるなど細やかな対応である。火の番や味見、片付けなど入居者のでき得る出番を支援することで、自信もつながっている。職員が胡麻をすっていると毎回、「ゴンゴンピース♪」と自作の歌を出される方など、ホームの台所は常に賑やかなようである。	職員は感染症への対応から時間をずらし同じものを摂っている。現在、同席していないこともあり入居者の食事のスピードが速くなっているようである。皆で一堂に会せる日を楽しみにしており、感染症の終息が待たれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを作成する際に出来るだけ偏りがないように心がけている。大きさ、形状、好みに合わせて対応している。好物を中心に食べている方もおられる。水分インアウトチェック表の活用をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ディッシュ、スポンジなど本人に合わせて使用している。必要に応じて歯科往診の依頼をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し声かけや必要な支援を行う。声のかけ方も利用者に合わせて行っている。トイレサインも見逃さないように気を付けている	個々の排泄パターンを共有し、必要な声掛け誘導、支援が行われている。日中はトイレでの排泄を基本とし、リハビリパンツやオムツの他、布パンツで過ごされる方もおられる。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、臭気など無いよう清潔に管理している。排泄用品はホームで準備しているが、面会を兼ねて家族が購入される場合は、現状と適切なサイズなどを伝えている。便秘の予防として使用される玄米パックは、職員による手作りである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルトで飲むヨーグルトを朝食時に提供している。ヤクルトやからいも、オリゴ糖の活用もある。玄米パックでの温めや腹部マッサージや体操の実施を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態や希望に応じた時間などで入浴を勧めている。季節に応じてしょうぶ湯や柚子湯の実施。お断りが多い方への対応も成功事例を共有し焦らず取り組んでいる	毎日入浴の準備を行い、基本的に午後から週2～3回支援している。好みの湯温でゆっくり入ってもらえるよう、職員は誘導や介助中の会話も配慮しているが、入浴の希望が少なくなっている現状のようである。ホームは家庭的な浴槽であり湯船に浸かることができる方は半数であり、身体状況からシャワー浴が中心の方もおられる。季節の菖蒲や柚子湯は継続して取り組んでいる。シャンプー類はホームで備えているが、使い慣れた好みの品を個別で用意される方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間もさまざまに本人に合わせている。入床時には玄米パックや湯たんぽの活用、灯り、室温、湿度も気掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の情報はファイルにてスタッフが確認できるようにしてあるが全スタッフが把握しているとはいえない。内服変更時には記録に残し変化に気付くことができるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や出来ることなどの情報をもとにホームでの生活でも続けることが出来るように支援している。(使い慣れた裁縫箱を持参頂き雑巾を縫うことなど)(大正琴、書道、読書、庭、ぬり絵)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	看取りが近い利用者の希望に沿ってご家族も一緒に動物園や花火大会への外出を行った。ご家族への会いたい気持ちに添い娘様宅への外出、長く生活を共にしてきた利用者の方の葬儀への参列など…	ホーム玄関前は季節の花がプランターに植えられ、日光浴の場所ともなっている。建物周囲を日課として散歩される方、畑作業と一緒にされる方もおられる。職員は入居者の一日がどれほど大切であるかを理解し、コロナ禍を言い訳にせず、感染症対策を施しながら外出支援に取り組んでいる。重度化・終末期にあっても本人の望まれる一言を引き出し、「次はどこへ行きますか！」の質問に「ドックショーへ行きたい！」と返答されたようである。また、個別支援で生家や親類宅へ斜面を登りながら訪問された方もおられたようである。	家族も一緒に動物園や花火大会への外出、地域のランタン祭り見学(18時半～)など日中だけではなく、夜間帯での外出も行われている。自宅帰省で収穫したミカンはジュースにするなど外出した後の楽しみごと工夫されている。今後も入居者の希望を引き出しながら外出の機会を持たれていくこと期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方はお金を持つこともされている。買いたいものを一緒に買いに行くことやスタッフに頼まれる場合もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている利用者もおられる。娘様への思いが募った時のために手紙を書いて手作りポストに入れる仕組みもある(面会時にお渡しし娘様からは返事が届く)年賀状のやり取りをされる利用者もおられた、荷物が届いた時にはお礼のTELをスタッフと共に行う		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品や飾り、花など心地よく感じられるように配慮している。個々に応じて入浴や排泄の際の環境を整える工夫もある。介護度が高く寝ている時間が多い方へも花や柚子の香りを楽しんで頂けるように居室へのお届けも忘れない	入居者にとって居心地よく過ごせるよう、季節の草花を飾ったり壁面、飾り物などを工夫している。席の配置も身体状況や相性なども考慮して決定しており、入居者同士や入居者と職員のやり取り、笑い声など穏やかな日常生活が伝わってきた。感染症への対応から掃除や換気、消毒に努めているが、入居者が過敏にならないよう配慮して取り組んでいる。また、ホームの看板犬(ゆうたろう君)とのふれあいは、入居者、職員にとっても安らぎや、楽しみとなっている。	終末期支援は居室での対応だけではなく状況によっては他の入居者の声を聞きながらホームの一員として過ごしてもらえよう、談話室の使用も行われている。今後もその時々で、共有空間を有意義に活用されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広縁があり一人でゆっくりしたい時には過ごすことができるようにしてあるが以前よりその場所で過ごす利用者は減っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や本人にとって安心できる環境づくりに気を付けている(仏壇、タンス、時計、カレンダー、椅子、写真など)	在宅からの入居者も多く、本人にとって馴染みや使い慣れた品の持ち込みを依頼している。入居後も必要な物を家族が持参されたり、ホーム側から願うするなど双方が協力しながら居心地の良い居室環境に努めていることが聞き取りからも窺えた。ベッドや布団の両方が用意された部屋や、歩行状態に配慮した物品の配置、職員を呼ぶために鈴が置かれた部屋など、個々に応じた環境が作られている。	介護度が高く居室での時間も多くなされた方には、特に季節の草花を飾ったり、柚子の皮にストローを刺し匂いを嗅いでもらうなど細やかな取組である。変わらぬ支援の継続に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること・できないこと・わかること・わからないことシート」を活用し基本的に「待つケア」を心掛けている		